

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	3	名称	国際・地域間交流の推進			
主担当部	総合政策部		主担当課	企画政策課		部長名	杉田 幸司
関係部	総合政策部		関係課	観光課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	国際・地域間交流を促進するため、様々な分野で国内外から多くの人、物、情報等が集まるまちを目指すため、市民が異なる文化との交流や体験を通じて多様な文化への理解を深めるとともに、市の個性ある歴史・伝統・文化等を活かして交流を行い、ふるさとに対する意識を高め、姉妹都市や友好都市との交流を推進し、歴史的なつながりや縁のある都市との交流を図ることを目的とする。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	<ul style="list-style-type: none"> ・友好都市中国洛陽市、姉妹都市宮崎市との市民同士の交流や、文化、産業等、多様な分野での交流が求められている。 ・姉妹都市宮崎市については、相互の訪問団交流や物産交流、農業交流等を拡大していくことが課題である。 ・友好都市中国洛陽市との交流については、今後は中高生や市民間での交流を広めることが求められている。 	領土問題を契機として、国レベルでは中国、韓国との関係が悪化しているが、地方政府間では、歴史的な繋がりが深い韓国公州市との交流において、国際交流に対する市民全体の理解を深める必要がある。平成28年には宮崎市との姉妹都市締結50周年を迎える。
これまでの成果	<ul style="list-style-type: none"> ・H18洛陽市青少年訪問団派遣 ・H19洛陽市市民訪問団派遣 ・H20洛陽市修学旅行受入 ・H22第2回洛陽市青少年訪問団派遣 ・その他H18以降行政、医療訪問団の受入 ・H24第1回、H25第2回公州大学文化教育プログラム参加訪問団派遣 ・宮崎市、橿原市観光訪問団の相互交流 ・橿原と宮崎の物産展の開催 	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	89人	70人	67人	80人	90人	100人		
	施策指標② (成果指標)	36人	32人	30人	33人	35人	60人		
	施策指標③ (成果指標)	45業者	45業者	56業者	45業者	45業者	45業者		
	施策指標④ (成果指標)	0校	1校	0校	1校	3校	5校		
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算				
	歳出 (直接事業費)(a)	10,822	17,337	9,319	20,287				
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0			
		国や県からの補助金その他	0	0	0	0			
	(a)-(b)=一般財源	10,822	17,337	9,319	20,287				
	正職員	従事者数 (単位:人)	2.20	2.20	2.25	2.60			
		人件費(c)	13,647	13,578	13,887	16,047			
トータルコスト (a)+(c)	24,469	30,915	23,206	36,334					

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	3	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	中国との外交関係は悪化し、交流事業の実施は困難であると考えられたため、派遣・受入ともに実施しなかったが、韓国公州市との交流は継続し、中高生の第2回韓国公州大学文化教育プログラムへの参加や現地学生との交流は行われたことから目標は達成した。今後、中国との外交歓迎の改善が見られない限り、訪問団実施は難しい。宮崎市訪問団の参加費用の割高感などに起因する応募者数の減少や、参加者の固定化、高齢者参加の偏重などから、H20年以前の実施状況と比較すると成果は低くなっている。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	大きな伸びは見られないものの、一定数の交流はできている。韓国公州市との交流で異文化理解を深める上での市政への貢献は高い。宮崎市との交流は姉妹都市交流の中核を成す事業であることから貢献度は高いが、成果の低下に比例して貢献度もやや低くなっている				

6. 施策の課題

この施策の課題	宮崎市との交流は、訪問団、物産展への出展ともに伸び悩んでおり、魅力ある内容に見直す必要がある。国際交流においては在住外国人への相談業務や学校等への講師、通訳派遣、広報の翻訳のみであり、市民が国際交流に触れる機会が少ない。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	宮崎市の紹介や参加者の感想などを広報やホームページなどで紹介するなど、姉妹都市・友好都市交流に関して、もっと多くの情報を市民に提供し、参加を促す必要がある。特に人の交流については、若者の交流が促進されるよう、歴史的な繋がりのある韓国公州市との交流を進めていく。また、国際状況を見て、洛陽市との交流も進めていく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	国際交流事業については、韓国公州市との相互訪問の実現に向け、交流を継続する。外国人講師や通訳の派遣についても、在住外国人が増加している中で、一定の効果が見られるため、継続して行う。姉妹都市・観光団事業については、訪問、受入れとも事業自体がマンネリ化しており、新たな交流事業の展開が必要となっている。平成28年の姉妹都市盟約締結50年を機に交流自体のあり方を見直す。友好都市交流事業については、地方政府同士では現状を維持して交流を継続する。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH25決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国公州市への文化教育交流のための中高生派遣 ・幼・小・中学校へ外国人講師・通訳者の派遣 ・在住外国人に対する広報の翻訳や生活相談 ・東アジア地方政府会合への参加 	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	A
	国際交流事業 (ソフト(任意))		5,387 (千円)			
2	企画政策課	平成25年度については、昨今の国際状況を鑑み、洛陽市担当者との協議を行った結果、現在の状況における交流事業の実施は困難であると考えられたため、派遣・受入ともに実施していない。 <ul style="list-style-type: none"> ・洛陽市公式訪問団受け入れ ・洛陽市医療訪問団受け入れ(洛陽市医療関係者を受け入れ、市内の施設の見学や、介護保険制度についての研修等を行う) ・第3回市民訪問団派遣の実施(市民による洛陽市への訪問団を派遣し、両市の友好の絆を深める) 	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	C
	友好都市交流事業 (ソフト(任意))		1 (千円)			
3	観光課	①親善訪問観光団事業 毎年宮崎市の「宮崎神宮御神幸祭」に合わせて、市民公募により結団された親善訪問観光団を宮崎市に派遣する。観光団は宮崎市をはじめとする九州各地を訪問し、費用の一部を市が負担する。 ②宮崎親善訪問団歓迎会事業 毎年4月の「春の神武祭」のパレードに合わせて来市する姉妹都市宮崎市の訪問団に対して公式歓迎会を行う。 ③「えれこっちゃんみやざき」踊り隊派遣事業 宮崎市で夏季に行われる「えれこっちゃんみやざき」へ踊り隊を派遣する。 ④「榎原夢の森フェスティバル」参加宮崎市物産関係者歓迎会事業 毎年10月に開催される「夢フェス」に合わせて来訪する宮崎市物産関係者に対する公式歓迎会を開催する。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B
	姉妹都市・観光団(宮崎市・榎原市)事業 (ソフト(任意))		3,931 (千円)			

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	国際交流事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	庵坂 和史					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	3	国際・地域間交流の推進							
	予算事業名	国際交流推進事業費									
	事業の開始年度	平成	14	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度			
	対象	市民、公立幼・小・中学校及び在住外国人									
	事業の目的	市民の異文化理解や、国際化意識を高めるとともに、様々な分野で交流を行い相互理解、国際協力の意識を高める。			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国公州市への文化教育交流のための中高生派遣 ・幼・小・中学校へ外国人講師・通訳者の派遣 ・在住外国人に対する広報の翻訳や生活相談 ・東アジア地方政府会合への参加 					
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
			2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		国際交流はNPOやNGOなど民間団体が中心となり推進されている事例が多く見られる。市としては原則サポート役として当該団体等を補助する立場で携わるべきである。									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	3	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	国際交流は国際的視野・感覚を養う意味では重要であるが、事業を取りやめても直接市民生活に影響を及ぼすことが少ないと思われる。ただし、在住外国人に対する生活支援を行う事業は不可欠と思われる。										
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	訪問団及びイベントの参加者数(人)			38	28	30	30	32		
	活動指標①	訪問団の派遣及び受入回数(回)			4	2	3	3	3		
	活動指標②	講師・通訳者派遣回数(回)			27	38	26	38	38		
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			4,865	7,485	5,387	10,070			
		歳入(b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			4,865	7,485	5,387	10,070			
正職員		従事者数(単位:人)			0.90	0.90	1.35	1.35			
		人件費(c)			5,583	5,555	8,332	8,332			
トータルコスト(a)+(c)			10,448	13,040	13,719	18,402					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考(これまでの実績等)	平成24年度から開始した韓国公州市との交流を継続し、平成25年度には2回目となる中高生の参加訪問団を派遣し、公州大学の文化教育プログラムへの参加や現地学生との交流などを実施した。										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	学生たちの国際交流事業や学校への外国人講師派遣事業は国際的視野・感覚を養い、国際交流への関心を高めている。 また、広報の翻訳や外国人通訳者派遣などは、在住外国人が生活する上で必要である。						
評価	効率性評価	現時点での有効性を評価してください	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	異文化の紹介、交流事業への市民の参加など、異文化への理解を深める取組、また、広報翻訳など在住外国人が生活しやすくするための取組は上位施策「国際・地域間交流の推進」に貢献していると考えられる。						
ACTION	修正行動	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	3	現時点で効率が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率が低く、大幅な改善が必要		
		説明	国際交流の関連団体が多く、法人による助成制度も充実しているため十分に活用することで、市の持ち出しの削減は期待できるが、市民視点に立って有益な交流相手を慎重に選別する必要がある。						
ACTION	修正行動	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	平成24・25年度には韓国国立公州大学に市内中高生を派遣するなど、学生らの国際的視野・感覚を養うことを目的に事業を展開している。財政難の折、公共性の観点から関わるべき範囲を慎重に検討しながら、相互に補完しあえる交流相手の選別が不可欠となる。 外国人講師・通訳派遣については、市内にあるまちづくり国際交流センターに委託していたが、費用面の検討も合わせて事業の拡充を図る。						
		この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する	課内優先度
		説明	友好都市交流と並行して交流の機会を増やし、異文化理解・多文化共生の意識の醸成に努める。在住外国人は増加傾向にあることから、今後様々なニーズが生まれてくると考えられる。国際交流ではなく、市民生活という視点での事業を展開させていく必要がある。						

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月6日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	友好都市交流事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	庵坂 和史					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	3	国際・地域間交流の推進							
	予算事業名	姉妹・友好都市交流費									
	事業の開始年度	平成	18	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
	対象	市民・職員			事業の内容説明	平成25年度については、昨今の国際状況を鑑み、洛陽市担当者と協議を行った結果、現在の状況における交流事業の実施は困難であると考えられたため、派遣・受入ともに実施していない。 ・洛陽市公式訪問団受け入れ ・洛陽市医療訪問団受け入れ(洛陽市医療関係者を受け入れ、市内の施設の見学や、介護保険制度についての研修等を行う) ・第3回市民訪問団派遣の実施(市民による洛陽市への訪問団を派遣し、両市の友好の絆を深める)					
	事業の目的	市民の国際意識を高めるとともに、行政間の様々な分野で交流を行い、相互理解、国際協力の意識を高める。友好都市である洛陽市との交流を通して相互理解を深め、友好促進を図る。									
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	姉妹・友好都市との交流は、国際感覚豊かな市民の育成に寄与するものである。							
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	友好都市協定の締結をしている為、両市の同意なしで事業の取りやめはできない。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	訪問団受け入れ			2	4	0	3	3	3	
	活動指標①	訪問団派遣			0	2	0	2	1	1	
	活動指標②	—									
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			1,300	5,047	1	4,418			
		歳入(b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			1,300	5,047	1	4,418			
正職員		従事者数(単位:人)			0.45	0.45	0.05	0.45			
		人件費(c)			2,791	2,777	309	2,777			
トータルコスト(a)+(c)			4,091	7,824	310	7,195					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考(これまでの実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	平成25年度は、昨今の国際情勢を鑑み、事業の実施を見送っている状況である。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	訪問団参加者が、今後、自身の経験を生かして、国際交流及び地域間交流に積極的に参画することが期待される。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	互いの交流を深めることが友好都市協定の趣旨であるため、こちらからの訪問回数の調整による削減は可能だが、受け入れる場合については、コスト削減は難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		友好都市の認知度を上げるためにも、交流事業を行い、市民の参画を促していく。 また、行政間交流に加えて、青少年の訪問団派遣等を積極的に受け入れることにより、より一層の市民間交流を図ることができると考えられる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	訪問団の受入・派遣等の交流の機会を引き続き検討し、市民に対して国際交流事業への参加を促すとともに、相互理解を深めていく。					

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	姉妹都市・観光団(宮崎市・樫原市)事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	観光課	課長名	西峯 光明					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	3	国際・地域間交流の推進							
	予算事業名	姉妹都市観光交流費									
	事業の開始年度	昭和	42	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	公募による観光団(宮崎市民・樫原市民)及び踊り隊、宮崎市物産業者			事業の 内容説明	①親善訪問観光団事業 毎年宮崎市の「宮崎神宮御神幸祭」に合わせて、市民公募により結団された親善訪問観光団を宮崎市に派遣する。観光団は宮崎市をはじめとする九州各地を訪問し、費用の一部を市が負担する。 ②宮崎親善訪問団歓迎会事業 毎年4月の「春の神武祭」のパレードに合わせて来市する姉妹都市宮崎市の訪問団に対して公式歓迎会を行う。 ③「えれこっちゃんみやざき」踊り隊派遣事業 宮崎市で夏季に行われる「えれこっちゃんみやざき」へ踊り隊を派遣する。 ④「樫原夢の森フェスティバル」参加宮崎市物産関係者歓迎会事業 毎年10月に開催される「夢フェス」に合わせて来訪する宮崎市物産関係者に対する公式歓迎会を開催する。					
	事業の 目的	・姉妹都市間(交流都市間)の訪問(観光)団や踊り隊の相互派遣の推進により、姉妹都市宮崎市との友好の絆を深める。 ・市民間の交流に力点を置き、その結果互いにふるさと意識の醸成を図ることを目的とする。									
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	青年会議所・商工会議所・農業団体等の民間交流が進んでいるが、行政間の交流、市民訪問団をはじめとする市民交流などは市が主導して交流を進めていく必要がある。							
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	宮崎市との姉妹都市交流の主要な事業であることから、取り止めた場合、姉妹都市の交流が形骸化する可能性が高い。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	訪問観光団の応募者数			33	40	30	40	50	50	
	活動指標 ①										
	活動指標 ②										
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			4,657	4,805	3,931	5,799			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			4,657	4,805	3,931	5,799			
正職員		従事者数(単位:人)			0.85	0.85	0.85	0.80			
		人件費(c)			5,273	5,246	5,246	4,938			
トータルコスト(a)+(c)			9,930	10,051	9,177	10,737					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	訪問団の参加費用の割高感などに起因する応募者数の減少や、参加者の固定化、高齢者参加の偏重などが両市の課題となっていることから、H20年以前の実施状況と比較すると成果は低くなっている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	姉妹都市交流の中核を成す事業であることから貢献度は高いが、成果の低下に比例して貢献度もやや低くなっている。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
		説明	訪問団の参加費用については、3泊4日を2泊3日に縮小する検討などを行ったが、大幅な低減には至らなかった。歓迎会については、そのあり方を両市で見直すことでコストが低減する可能性はある。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		・訪問団事業について、単なる旅行となることがないように宮崎市との交流に主眼を置いたコース設定や交流内容が不可欠である。また、宮崎市の紹介や参加者の感想などを広報や市ホームページなどで紹介することで、一層宮崎市への関心が高まり地域間交流が促進されると考えられる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明		親善訪問団は姉妹都市交流の中核を成す事業であることから、負担金額を維持しながら訪問団の応募者増につながる姉妹都市交流ならではの魅力的な行程を検討するとともに、歓迎会については、そのあり方を宮崎市と調整しながら見直しを行い、コスト削減も検討する。								